

平成 27 年 10 月 30 日

課題領域「オープンアクセス方針」の活動計画と進捗報告

1. 領域全体

1. 1 班構成と構成員

(1) オープンサイエンス班

- ・三隅健一（北海道大学）、三角太郎（千葉大学）、天野絵里子（京都大学）、大園隼彦（岡山大学）、川村拓郎（広島大学）、西菌由依（鹿児島大学）、南山泰之（極地研）

(2) 学会動向把握・対応（含、SCPJ）班

- ・真中孝行（筑波大学）、船山桂子（筑波大学）、中原由美子（千葉大学）、松本侑子（広島大学）、宮原柔太郎（日本体育大学）、野中麻有（第一薬科大学）、阿曾礼次郎（北星大学）

(3) オープンアクセス方針対象論文トラッキング班

- ・三隅健一（北海道大学）、林豊（九州大学）、山地一禎（国立情報学研究所）、片岡真（国立情報学研究所）

【顧問委員】

尾城孝一（東京大学）

1. 2 活動目的

- ・機関リポジトリをプラットフォームとしたオープンサイエンスの推進を図り、各図書館における取組みを多面的に支援

1. 3 会合

- ・第1回全体会合 平成 27 年 11 月 10 日（中間まとめ、予定）
- ・第2回全体会合 平成 28 年 2 月（平成 27 年度のまとめ、予定）

2. 各班の活動

2. 1 オープンサイエンス班

(1) 活動目的

- ・機関リポジトリをオープンサイエンスのプラットフォームとして活用するための検討

(2) 会合

- ・第1回ミーティング 平成 27 年 6 月 12 日（キックオフ）
- ・第2回ミーティング 平成 27 年 11 月 10 日（中間まとめ、予定）
- ・第3回ミーティング 平成 28 年 2 月（最終まとめ、予定）

(3) 活動状況

①OA ポリシー策定支援ツールの開発（配布資料 3-4-2）

- ・平成 27 年 10 月 7 日に、ポリシー策定支援ツールの開発のために、京都大学でのヒアリング調査を実施（方針策定の経緯、方針実施のために構築している登録システムの詳細について聞き取り）
- ・海外事例を調査し、ポリシー策定支援ツールの構成要素について検討

②RDM トレーニングツールの開発

- ・日本向けのトレーニングツールの開発にあたり、まず図書館員向けのツールの開発に着手
- ・海外で作成されている既存のトレーニングツールの調査と、それらの構成要素や提供形態、ライセンス等について比較分析を実施（これらの分析を踏まえて、日本向けツールの構成を考える）
- ・トレーニングツールの提供とあわせて、用語集の整備や関連情報の提供を予定

③研究データ対応メタデータスキーマの検討

- ・研究データに対応するために、現在の junii2 に不足しているフィールドのリストを作成

④ケーススタディによる研究データ管理ノウハウの蓄積

- ・機関リポジトリへの既存データベース登録の可能性を探るために、DNavi を利用した調査を開始
- ・科研費研究成果公開促進費により公開された「データベース」（H18～H23）の整理に着手
- ・千葉大学および岡山大学にて、論文のみならず、論文に付随するデータの提供を研究者に呼びかける取り組みを開始
- ・極地研における、観測データのデータジャーナル化に伴う検討の過程で浮上した問題点の整理

2. 2 学会動向把握・対応（含、SCPJ）班

（1）活動目的

- ・オープンアクセスの政策動向をフォローした上で、SCPJ のポリシー再調査の必要性について検討
- ・SCPJ の今後の維持管理体制について検討

（2）会合

- ・第 1 回ミーティング 平成 27 年 11 月 10 日（予定）

（3）活動状況

- ・メーリングリスト上での意見交換
- ・今後の活動計画
- ・オープンアクセスの政策動向を把握し、まとめを作成

- ・政策動向を学協会に提供することと合わせて、学協会の回答率の向上をめざした再調査の実施について検討
- ・今後の SCPJ の維持管理体制について検討

2. 3 オープンアクセス方針対象論文トラッキング

(1) 活動目的

- ・国内各機関におけるオープンアクセス方針の対象となる論文等の全体像を把握し、そのオープンアクセス化の進展をモニタリングするためのツールを開発
- ・平成 27 年度は、プロトタイプとして科研費助成研究の成果論文の OA 状況を把握するためのシステムを構築

(2) 会合

- ・第 1 回ミーティング 平成 27 年 8 月 7 日 (キックオフ)
- ・第 2 回ミーティング 平成 27 年 11 月 10 日 (予定)

(3) 活動状況

- ・プロトタイプシステムの仕様の検討
- ・データソースとして、KAKEN と JAIRO (IRDB) を使用
- ・平成 26 年度に技術 WG で開発した IRDB と researchmap の論文マッチングアルゴリズムの活用について検討
- ・プロトタイプ構築に向けた今後の活動
 - ・プロトタイプシステムの仕様の確定
 - ・業者選定・発注
 - ・プロトタイプシステムの開発
 - ・メタデータスキーマの検討 (オープンサイエンス班、博士論文班と連携)
 - ・プロトタイプシステムの公開 (平成 28 年 3 月目途)

以上